

# TRANSNATIONAL CINEMA SYMPOSIUM 2017

11月23日(木・祝) 12:00~19:45

詩人尹東柱の生誕 100 周年記念

「新しい過去」への旅:

ドキュメンタリーと舞台で出会う尹東柱

主催: 立教大学異文化コミュニケーション学部、

延世大学尹東柱記念事業会、ソウル芸術団

後援: 駐日韓国大使館韓国文化院、延世大学劇芸術研究会同門会、

詩人尹東柱を記念する立教の会、立教大学韓国事務所、立教大学チャプレン室

会場: 立教大学池袋キャンパス タッカーホール・9号館大教室

第一部 ドキュメンタリー映画「不滅の青年、尹東柱 (KBS, 2016)」上映、講演と座談会

第二部 ショートフィルム「尹東柱を旅する」上映、詩劇「ごめんなさい、東柱」上演

第三部 ソウル芸術団創作歌舞劇「尹東柱、月を撃つ。」

**2017年 トランスナショナル・シネマ・シンポジウム**  
**詩人尹東柱の生誕100周年記念**  
**－「新しい過去」への旅：ドキュメンタリーと舞台上で出会う尹東柱－**

立教大学の朝鮮人留学生であった尹東柱は日本人に最も愛されてきた韓国の詩人である。立教大学異文化コミュニケーション学部は延世大学尹東柱記念事業会とソウル芸術団との共同主催で、詩人尹東柱生誕百周年を記念するシンポジウムの開催に至った。彼の人生を描いたさまざまなジャンルの芸術作品を通し、歴史的価値のある彼の記憶を人文学的に振り返る機会となることを望む。

詩人尹東柱は1917年12月30日、中国の朝鮮族自治州の延辺で生まれ、1938年ソウルの延禧専門学校（現：延世大学）に入学。1942年3月に東京の立教大学文学部英文科に留学。しかし、一学期を過ごした後、戦雲が立ち込めた立教大学から離れ、1942年10月には京都の同志社大学に編入する。1943年7月には帰国前にして、治安維持法違反の疑いで逮捕され、1945年2月16日に、福岡の刑務所で生涯を終えた。

今の時代を生きる多くの日本の若者は、植民地時代の葛藤を表現した詩人尹東柱の作品を知らない。本シンポジウムを通して彼の生きていた時代に遡り、日本の若者が当時の人々が抱えていた苦しみや痛みを理解し受け入れることを試みる。同時に、詩人尹東柱を知る世代が、彼らの記憶を次の世代である若者たちに伝承する機会になるだろう。

<概要>

日 時： 2017年11月23日（木・祝）12:00～19:45  
 場 所： 立教大学池袋キャンパス タッカーホール・9号館大教室  
 内 容： 東アジアにおける多文化共生社会の構築と日韓文化交流

時間	場所	プログラム
(第1部) 12:30～13:30	タッカーホール	ドキュメンタリー映画「不滅の青年、尹東柱（KBS、2016）」上映
13:30～16:00		講演と座談会、質疑応答
(第2部) 16:20～16:50		立教大学異文化コミュニケーション学部 学生ショートフィルム「尹東柱を旅する」上映
17:10～17:40		延世大学・立教大学在学学生による詩劇「ごめんなさい、東柱」上演
(第3部) 18:10～19:30	9号館大教室	ソウル芸術団創作歌舞劇「尹東柱、月を撃つ。」

<講演者一覧> ※順不同・敬称略

オオムラサオ    パクビョンギル    タゴキチロウ    ヤナギハラヤスコ    ユンギョソ  
 大村益夫 / 朴丙吉 / 多胡吉郎 / 楊原泰子 / 柳時京

<上映映画とミュージカル詳細>

上映映画「不滅の青年、尹東柱」

詩人尹東柱の没後70年を過ぎる今、この作品は永遠の青春詩人として位置づけられ、世界中から愛される彼の文学世界に焦点を当てた作品。生前、詩壇においては一編の詩も発表せず、無名の青年であったものの、彼は今、韓国人が最も愛する詩人となった。さらに、日本語を含め8カ国の言語に翻訳され、世界中から愛されている。2016年、KBS 公社創立43周年記念で製作された。

ミュージカル「尹東柱、月を撃つ。」

詩人尹東柱の生涯と彼が残した美しい詩で満ち溢れたソウル芸術団の作品は、文学・音楽・ダンス・ドラマが組み合わせられた、韓国の総合的芸術といえる。劇中では詩人尹東柱の代表的な詩8編が、彼の生きた時代の痛みを表現したセリフに溶け込み、観客を魅了する。最初の海外公演を迎え、さらに洗練された舞台が期待されるこの作品では、詩人尹東柱の叙情的な詩語がもう一度客席に静かな感動を起こすだろう。